

たより

『美紗の会』 ニュース

第十五号

平成七年三月三十日

発行者
「美紗の会」事務局

☎ 03-3441-2726

第十一回美紗の会

おひきぞめ

二月四日
白金台福祉会館で

昨年の「おひきぞめ」は十五年ぶりの大雪で欠席者が続出しチョット寂しい会であったが今年はお天気の心配もなく、去年と同じ白金台の福祉会館で「美紗の会」の出演予定者全員が参加して楽しい新春のおさらい会となった。

司会は浅野さんが担当され美しい声と落着いた名調子で出演者一人一人を紹介しながらやかな雰囲気の中で、出演者も気分良く演奏出来た。このところ毎回トップバッターをつとめる師匠のお母さんは、もともと美声の持ち主

『おひきぞめ』を終えて

会主 橋場はつえ

今年の「おひきぞめ」は、お陰様で、本当に楽しい会でした。天候にも恵まれ、お弟子さん方も時間前に揃って下さり、日頃の稽古の成果を充分発揮なされ、緊張の中にも和気あいあいとしたムードが漂い、美紗の会らしいひとときでした。

皆様の上達ぶりもさることながら、嬉しかったのは都合でおやめになった懐かしい方々がいらして下さったこと。はるばるニューヨークからご夫妻で参加下さった高橋さん、すでに一人の坊やの母親となった佐々田さん、横浜に勤務先が移られけいこが出来なくてもバッチリ唄って下さる大西さん、毎回お客様としていらして下さる池沢さん、そして「につぼん丸」でのパーティーがご縁で、玄人はだしカメラマンよろしく素晴らしい写真撮って下さった宇田さん、会のためになつた

でカラオケの名手であるが、今までは練習不足でなかなか実力を発揮できなかったが、今年には完璧の出来で気分良く退場。続く練習きらいの名手、加藤さんも明るいきれいな声で上手に完唄。一番バッター、二番バッターが好調にすべり出したためこのあとは全員が今迄にない練習の成果と実力を発揮することができた楽しいおさらい会になった。

い方々にお逢い出来るのも、大きな楽しみでございます。今回は阪神大震災の直後でもあったので、岡崎さんの獅子舞いにことよせて義援金を募りましたところ予想以上の金額になり、趣味の会でも、心をひとつにすれば何かが出来るといふことを示されたのは、大きな収穫でした。皆様のご支援のおかげで、小さなつぼみが少しずつふくらんでまいりました美紗の会が、やがて色つき花開きますよ、近づいてくる春と共に、精進しながら、夢見ております。今日この頃でございます。

今年の特記事項は新美女タコンビの誕生だろう。このところ毎回大型新人が登場し、ぐうたらな先輩弟子達（赤坂組）を脅かしているが今回の新コンビ、昭沼大佳子さんと日比野赤希子さんの二人は、容姿端麗、舞台度胸も満点でしかも邦楽向きの美声の持主なので全員が驚嘆した。一方ベテランの美女タタコンビは藤井さんがお休みのため松岡さん一人で上方唄「ぐち」を唄った。

今年はニューヨークから高橋夫妻が出席され、ご主人はおとろえぬ声で「春風がそよそよ」と「辰巳やよい」とも披露、またニューヨークに同時期赴任されていた高橋さんの友人の竹内さんも「一人寝のひと声は」を競演されたことはうれい出来事であった。

トリはいつものように会主と花柳千寿文師匠の唄と踊り『新春』『梅にも春』で全員感動の内に千秋楽を迎えた。なお、発表会のあとの懇親会の席で芸人の岡崎さんが今年も獅子舞を熱演、参加者一人一人から好物の「カミ」を餌付けされたが、これが合計五万四千円となり阪神大震災の被災者への義援金としたことも特記に備いしよう。

(本拠記)

随筆

私の勸進帳

六じゅう六

私は小さい頃から歌舞伎を見ていた。見させられていたと云った方が本当かも知れない。しかし劇の内容と意味が判り、面白いこれはい、ものだと感じたのは、旧制中学生になった頃見た勸進帳が初めてであった。その感動が縁で歌舞伎を始め、演劇とは深い馴染みができた。終戦後にはシンガポールの南の無人島レンバン島に收容された。藤山一郎もいる北レンバンに對抗し、南レンバンでも「南の島に雪が降る」式の文化活動を行った仲間があった。私もその中のひとりだった。さてそれはそれとして、話を勸進帳に戻そう。

人の情けを知る、義勇の地方武士富樫は、弁慶の苦衷の忠誠心に打たれて、激しい問答のやりとりの末「今は疑い暗れた」と、弁慶一行を鋭く凝視していた眼をふと外らし、空を見上げて一瞬まばたく所作をする。長唄は一声「通れとこそは罵りぬ」と。劇の神髄はこゝにある。この場面を私は最高だと思つた。この劇のモチーフがこゝに一点凝縮されているとみる。能の「安宅」からとって、長唄を地にし舞踊の要素を加えて、所謂松羽目ものとする所作劇が作られた。能の様式をとり入れて、この格調の高さがあり、且つ日本人の好む忠と義の心を

振り、なお「判官びいき」の大衆感情をもとらえた演出は見事である。長唄の作曲もまた優れてストーリー的、躍動感溢れるダイナミックさは現代感覚にもマッチしている曲である。劇的にも、詰め寄りに見えるアンサンブルの緊迫感、また「判官御手を取りたまひ」の情趣が感動的で、更には夕波の立ちくる須磨、明石の古戦場に思いを馳せる哀感。そして一転して、弁慶の豪壮な延年の舞と「面白や山水にから鳴るは滝の水滝の水」の躍動感溢れるリズムの中を、義経一行は陸奥の園へと下りて行く。見届けた弁慶が豪快な飛六法で花道を引込むまで、動と静、そしてペーソスあり、名曲の長唄と相俟って興趣尽きるこのない歌舞伎十八番中でも随一にあげてよいと思う。

長唄の歌詞に「目だれ顔の振舞、臆病のいたりか」との文句がある。「目だれ顔」とは聞いたことがない言葉なので、どんな意味（顔？）なのかと広辞苑を引いてみたら「人の弱みにつけこみしめたこと、喜ぶ顔のこと、転じて人の弱点につけこむこと、卑怯なこと」と載っていた。成程富樫はそんなことはできない武士だった。

私は今白金の師匠のもとで勸(二頁五段目に続く)

「会員からの便り」

神戸 橋本直樹氏より

死者五千人以上という、ある意味では関東大震災を凌ぐ激しさを思わせる淡路・阪神大震災。美紗の会、会員の皆さんにも直接間接に多くの被害、影響を受けた方も多いことと思う。一面でも紹介されたように今年の「おひきぞめ」では被災者に対する参会者の気持ちとして見舞い金も集められた。

阪神在勤で、ともに災害に直面した会友・橋本直樹氏から、この程会主あてにお見舞いへのお札の手紙が寄せられた。災害の真っ直中にありながら、冷静な目で状況を見詰め、滲み出る立ち直りへの意欲が読める。今回の「会員からのたより」は趣向を変え橋本氏の同意を得て、その手紙を掲載させて頂くことにした。皆さんもあらためて災害の恐ろしさを感じ取られると共に、同氏初め被災地の皆さんにいろいろな形で支援を送られることを望みたい。

橋場はつえ様 拜啓
残寒のみぎり、皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申しあげます。
さて、先般の大地震の折には早速安否をたずねて下さり、お見舞いのお言葉を賜りました。まことに有難うございました。神戸には電話が通じず、ずい分と心配をおかけしたことと存じます。
東京の家に御電話を下さった方が多く、皆様の友情を

あらためて感じ心あたたまる思いを致しました。
一月十七日午前五時四十分、ドドドーンと突き上げる縦揺れ、ギーギーと鳴る横揺れ、同時にガシャガシャガシヤという音と共にうちの中ものが折り重なって倒壊し、やがて一瞬暗黒の静寂がきました。
壁をつたって玄関に向いドアがあったときはホッとしました。
二時間ばかり近くの公園に

避難したあと、もどって着がえをし、六甲アイランドの会社に向いました。その時点ではまだ人々は動き出していないので会社まで行けなかった。フェリーの岸壁は大破と陥没で一見して使用不能の状態でした。電話がなかなか通じない中、船と大分営業所と、商船三井本社にとりあえずの報告と指図などをしましたが、今日から事業をどう運営したら良いのか考えがまとまらぬま、一たん帰宅しました。

その時点では、一兩日中ぐらいのあいだに事態はかなり回復するだろうという漠然とした期待をもっていたように思います。ところがそれは極めて甘すぎる予断でした。一日二日とたつうちに状況ははるかにひどいものであることがひしひしとわかってきました。

夕方、東京の家内から電話が通じまして、皆様から見舞いの電話がかかっていることを知りました。が、こちらからは家の電話では掛からず、公衆電話は長蛇の列でおかけすることができず失礼させていたゞきました。
私のアパートは幸運にも倒壊を免れていましたので、その晩と翌晩とは水と電気も無いま、衣服をつけたまま、長い

夜を過ごしました。十九日未明から活動を開始し、大阪、大分、東京、神戸と移動しながら徐々に会社の運営を図っていきましました。

現在は神戸の代りに大阪に寄港し、大分・松山・大阪という臨時航路で運航しております。本拠地六甲アイランドのバースに船がつけられるようになるのは数ヶ月あとのことになりそうです。

私のアパートの周辺はいわゆる活断層の直上にあつたものと見え、建物の九割が倒壊しております。それも多くが一階部分が押しつぶされ、二階が一階になるような形でつぶれております。十階建てぐらいのマンションも一階のアーケードが粉砕され、上部がつんのめるように傾いています。一ヶ月以上たつた今もほとんど手つかずでまるで死の街です。此頃はひと目見ておこつと見物に来る人もおられる有様です。

震災から十日後に電気が二十日後に水道が通つてや、活きかえりしましたがガスはまだまだで風呂に難儀しています。先日週末には豊岡の母のもとに風呂に入りかたがた帰つて来ました。
ひっそりかえつていた冷蔵庫、テレビ、エアコンなど抱きおこして電気を通してみる

と、傷つきながらも健気にも生きかえつてくれ、よく頑張つたなと撫でてやっています。被災地の真中において、報道や救援のことについてはいろいろ思ふこともありますが、あまり書く気にもなりません。

私はまず身体に異常なく、個人としては経済的損害も軽微であり、四隻の船も動いていて従業員も働き場所を失つてはいないことなど、あれだけの震災にしてはまだ極めてラッキーな方だと思つております。

会社の損失は大きく、とりかえずには何年かかるかと気の重いことですが、ファイトは失つておらず元気にやっていますのでどうか安心下さい。有難うございました。
以上御礼芳々近況報告と致します。
末筆ながら皆様の健勝をお祈り申しあげます。

平成七年一月二十一日 敬具
橋本直樹
見舞い金有難うございました。
(一頁六段目より続き)
進帳を留まっている。たいへんな大物だが私にとっては年来の宿願である。
先日押し入れを整理したら、お袋の使つていた長唄の教本

「歌扇録」(二十六曲入)と、手紙の「娘道成寺」他分本の短編集や「沙波」「都鳥」他二編がでてきた。裏表紙には毛筆でお袋の名前がしっかりと書いてあった。

長唄を稽古する気になつたのも、見えない糸の親子の因縁かと、来年のひきぞめには必ず進帳を唄わせてもらおうと思つている。
終りに私の独断で選ぶ現代のベスト配役。
弁慶：中村吉右衛門
富樫：中村富十郎
義経：坂東玉三郎
(参考)

聞き慣れない詞があるので広辞苑より引く。
庵阿毘羅呼欠：おんあびろうんけん
庵は帰依の意、諸仏の通用の呪とし、一切の法を含み、この呪を唱えれば、一切の事柄は成就すると説く。
三塔：比叡山延暦寺(西塔、東塔、横川)の総称。
遊僧：大法会の後の舞などを得意とする僧。
延年の舞：東大寺、延暦寺等の大寺で行つた芸能の総称。(従つて弁慶は高邁な自尊心を持つてこの舞をまつたわけである)